

会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度第 1 回行田市市民公益活動推進委員会
開 催 日 時	令和元年 7 月 1 1 日（木）開会 10 時 00 分・閉会 11 時 15 分
開 催 場 所	行田市役所 3 0 5 会議室
出 席 者 氏 名	生沢弘幸 山口尚美 小池佐栄子 羽鳥優治 金原二郎 串田隆義 松井秀二郎 今村武蔵 小河原宏之 駒見行彦 智田輝史（代理： 野村和子） 澤田春雄 田尻要 大谷春彦 守裕平 馬場康治（代理：鴨田圭佑） 岡戸修平 〔オブザーバー：小林宏光・ものづくり大学大学院生中村・菰塚〕 ※敬称略
欠 席 者 氏 名	石橋和夫 智田輝史 加藤智宏 ※敬称略
事 務 局	地域づくり支援課：岡戸課長、風間主幹、内沼主査、黒澤主任及び市民活動サポートセンター職員 1 名
会 議 内 容	1 委嘱状交付 2 委員長挨拶 3 議 事 (1)市民活動サポートセンターの活用について (2)市民公益活動推進基本計画の推進について ① 進捗状況の報告について ② 平成 31 年度の担当について ③ 計画期間について (3) その他
会 議 資 料	(1) 資料 1 市民活動センターの活用について (2) 資料 2 市民公益活動推進基本計画の推進について
その他必要事項	傍聴人なし

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会 委 員 長 司 会 事 務 局 議 長 議 長 事 務 局 議 長 今 村 委 員	○ 開 会 ・開会を宣言 ・会議成立の旨の報告（過半数の委員の出席による） ・傍聴者数の報告 など 1 委嘱状交付 ・行政機関選出委員の人事異動に伴う後任者への委嘱及び任命 2 委員長挨拶 ・あいさつ 3 議 事 ・要綱の規定により、会議の議長を委員長が務める旨の説明 (1) 市民活動サポートセンターの活用について ・資料 1 等に基づき説明 ・市民活動講演会について説明 ・何か意見等あるか。 ・特に継続性という部分が難しいと思うが、いかがか。 ・市民活動サポートセンターもスタッフが変わった。 まずは、ここにいる委員の皆さんが、センターを積極的に活用し、育てていく協力をお願いします。 (2) 市民公益活動推進基本計画の推進について ①進捗状況の報告について ・資料 2 等に基づき説明（前回の会議からの変更点の補足） ・何か意見等はあるか ・市報の記事の取材をサポートセンタースタッフが行ったり、会議の時間を固定することなど、小さなことだけれどとても大切である。 ・市民公益活動推進基本計画が始まって、5 年目。市民公益活動団体を増やしていこう、市民公益活動をする市民を増やしていこうというのが本会議の目的だと思うが、果たしていかにどの実績があるのか。会議に参加していながら、どれだけ貢献できたか、疑問に感じるところである。事務局はどのように考えているか。

事務局	・行政側にはない考えをみなさんからいただき、市民活動について自分たちでは気づかない部分を気づかせてもらったという意味で、効果があると思う。講演会についても、自分たちがやりたいことをやりがちだったが、昨年から共催というやり方に変えたことにより、（企画段階で）講師を探していただいたり、講演会を聞いた団体が、今後希望すること、必要なことを考えるきっかけとなったのは貴重な事であったと考える。また、市民活動サポートセンターと地域づくり支援課でもっとこうなったらいいなと考えて行動している結果として、市民活動を始める方が増えているのではないかと感じている。また、市民活動サポートセンターのスタッフと団体の方が顔を合わせる機会が増えたので、その点でも支援させていただいていると思う。
今村委員 議長	・前進があるとみているということでしょうか。 各委員、委員長にも意見を聞きたいところです。 ・どれくらいの効果が上がっているのか、2つの点からみていく必要があると思う。1 つ目は定量的に。定量的とは数値で見ていくということ。例えば、広報の回数や会議を始める前とこの5年間で、市民活動をしている人がどれくらい増えたのか、団体数は増えたのか、助成金を活用する団体数など数字で可視化して把握していくことが大切だと思う。2 つ目は跡跡的に見るということ。新しい取り組みについて、具体的には市民活動サポートセンターができたということだと考える。市民活動サポートセンターが軌道に乗ってきたかどうかということは別として、新しくできたということは大きな前進なのではないかと思う。数値目標の達成だけが全てではないが、この 5 年間の数値を整理していくことは今後のアクティビティの検証をしやすくするためにも必要かもしれない。
事務局	・今、数字的なことで伝えられることとしては、やる気応援助成金の申請が以前は2件ほどだが、昨年度は 4 件あった。一昨年までは『新たな取組事業』だけだったが、昨年から『スタート応援事業』ということで、NPO 市民大学活動センターや NPO 法人にりん舎から初めて申請が出たことが結果として表れていると考えている。もう1点、みずしろフェスタについて。一昨年と比べると、参加人数、参加団体が増え、来場者は 7 倍くら

議 長	いに増えた。市民活動サポートセンターの利用者の数については、28年度は 667 人、29 年度 1639 人、30 年度は 1 月までの実績が 1486 人となっている。今年度はまだ集計できていないが、利用者は増えているのではないかと思う。
今 村 委 員	・今、事務局から説明のあった数値の一覧について資料を添付してもらえるといいかなと思います。都合にいいデータ、悪いデータあると思うが、悪い部分はこれから改善していけばいいのですから。新しい取り組みについても、数値化するのは難しい部分ですが、ここで一度整理してみることは大切なこと。貴重な意見をありがとうございました。 ・自分たちの活動を各方面でPRしている。そうした中で、他にも市民活動をしている団体があったり、イベントがあったり、情報をいかにつかんでいくかという状況である。主たる事務局がどこのセクションかというのは、役所運営の問題だと思うのだが。相対的に、いくつの市民活動団体があるのか、どれだけのイベントがあるのかを把握することが大切なのではないか。先日、行田市内で市民活動団体子ども大学ぎょうだが 10 年目を迎え、市制 70 周年の助成金をもらいオープンキャンパスをやった。謎解きゲームというイベントで、親子で 800 人参加。10 月にはこども祭りがある。各種団体が協力し、去年は 400 人の子どもが来た。そのようなイベントと連動してやっていく必要があるかなと思い、情報を整理していく必要を感じている。
議 長	・所属の団体では熱心に活動していると思うが、全体として委員会としてどうなのか、一度整理したほうがよいだろう。市民公益活動推進基本計画の進みが遅いという自己反省のためにも、整理が必要と感じる。
事 務 局 議 長	② 平成 31 年度の担当について ・資料 2 等に基づき説明 ・何か意見等あるか。 ・共有システムとはどんな感じなのか。
事 務 局 議 長 松 井 委 員	・共有のシステム化については模索中。 ・知恵をお持ちの方がいたら、一緒に取り組んでもらいたい。 ・サポートセンターのフェイスブックやツイッターをやろうとすると、行政的な

	網にかかってしまう。行田市は広報広聴課発信でないといけないようなイメージでいるが、やってしまえばいいと思う。何を恐れているのかよくわからないが、他市ではやっているのだからだから、やってしまえばいい。他市では市民活動センターがSNSでイベント情報を発信し拡散している。行田も意識の改革をしてくれないと進まない。市民公益活動団体の『公益』って、行政の専売特許のようなもの。小さな芽をどう育てていくか、サイクルをうまく作っていかないといけない。人口が減り、行政職員が減り、というなかで課題が増えていく。にりん舎の活動はまさに『公益』。行政課題と団体のやりたいことのマッチングを行い、団体を育てていくことが、行政課題の負担軽減になるという発想で行かないと、いつまでも市民活動がさかんな街にならない。
今 村 委 員	・情報の共有化としての発信方法について、行政では制約があり難しいのであれば、市民‘sネットでやってくれないか。そういう目的でできた団体ではないのか。
議 長	・情報発信の方法として、フェイスブック、ツイッター、インスタ等のSNSは行政が少しでも関わっていると、ノーチェックでというのが難しいのだと思う。我々のような公益性のある団体となると、情報発信のガイドラインを作る必要がある。何かあったとき、一度流れてしまうと後戻りできないものなので、危険性がある。ガイドラインに沿って即時に判断して発信する。ノーチェックは怖い。行政が関わると難しいのかもしれない。続いて③へと移りたい。
事 務 局	③ 計画期間について ・計画期間は平成 27 年度から令和元年度となっている。しかしながら、項目箇所によっては、予定どおり進んでいないものもある。そこで、第5次総合振興計画の終了年度(令和 2 年度)まで、計画期間を延ばすことを提案したい。新たな計画については、次期総合振興計画が策定された後に、内容を精査したうえで、策定することを考えている。その点について、ご意見をいただきたい。
議 長	・何か意見等あるか。 ・引き続きやるしかないと、委員長としては考えているが。

駒見委員	・この項目に限らず、何か意見等あるか。 ・この会議に3年参加し、議案が上がるが、どのような意見を述べればいいのかわからない。関わり方法がわからない部分がある。もう少し意見を述べやすいマニュアル的なものがあればいいと思う。投げかけ、質問や意見に対して、答えがない、答申がない、解決しない。ゆえに、次回も同じ質問がでることもあり、問題は解決しないのだと思うようになり、発言が減ってしまう部分があるのではないかと感じている。
議長 事務局	・ありがとうございます。 ・達成基準等をつくりながら、市民活動って難しいと感じている。数字や表を用いて、みなさんにわかりやすい資料を作成できればいいと思っている。ここで発信してもらい意見、どんなことでもいいので発言してほしい。一歩ずつでもいいので進んでいけたらいいと思っている。公募市民の方からの団体での意見ではない意見も貴重なものとして受け止めたいと考えているので、よろしくお願いします。
議長	・未達成の理由があるはず、課題が眠っているはずなのに、問題共有してみんなで解決していくサイクルが必要なはず。今後改善していかななくてはならないことだと思う。
今村委員	・公益活動というとぼやとしていてわかりにくいものだと思う。そういうときは部門別に考えればいい。社会教育関係、福祉関係、地域活動関係など。部門別に絞り込んでいくと発言が出てくるのではないかなと思う。
駒見委員	・松井委員の発言で「広報ができない」とあった。ではどうしたらいいのかというなかで、フェイスブックを使えばいいんじゃないかと答えをだした。フェイスブックを使えない理由があるのかと投げかけたにもかかわらず、その答えがまだ出ていない。せっかく問題点が出たのに、掛け合いができず流れてしまうのがもったいなくて残念だと思う。次の会議までに、庁舎内で検討した結果、こういう形ならフェイスブックを使うというような提示をもらいたい。
議長	・事前に資料を配るだけではなく、どんな内容を協議するか情報提供や課題を提出してくれると会議が活発になるかなと思う。改善できるところから改善していきたい。 (3)その他

事務局 小林 OBS	・ここではなんでも、どんな意見でもどうぞ。 ・アピールしたいことがあればなんでもどうぞ。 ・最後に事務局からどうぞ。 ・オブザーバー小林様より講評を
中村 OBS	・地域課題の解決に向けた、コミュニティビジネスの推進をしている自治体の応援としてこの会議に参加させてもらっている。公益活動もコミュニティ活動の継続性が大切であると感じている。ソーシャルビジネスに繋がることを期待している。経済産業省で今推進している事業を紹介すると、消費税増税するので、キャッシュレス消費者還元事業というのがある。キャッシュレス化に取り組んでいる小中事業者の支援。事業者の方にキャッシュレスに取り組んでいただきたい。消費者として、キャッシュレス決済で買い物をしてほしい。
議長 司会	・過去にアンケートを実施させてもらった。学生だからできる支援があると思う。機会があれば研究室を利用してもらい行田市の発展に務めていきたいと考えている。 ・以上で本日の議題は終了です。これにて職を解かせていただきく。 ○ 閉 会 ・閉会を宣言